

第5次和泉市地域福祉基本・活動計画 目標に対する取組み状況について

- この表について
第5次和泉市地域福祉基本・活動計画で定めている各取組み目標について、令和6年度の『実績』や『目標達成状況』、『今後の方向性』などを、担当各所に照会を行い、回答いただいたものの一覧表です。
- 会議で取り上げる項目について
特に地域福祉の推進に重要と思われる項目を、以下のとおり抜粋してご報告いたしますので、ご了承ください。

小分類 No.	取組み目標	説明担当
1	①「地域福祉基本・活動計画」の情報発信・共有	市(福祉総務課)
19	③ 地域貢献連絡会の開催およびNPO、事業者、社会福祉法人の社会貢献活動と地域活動との融合	和泉市社会福祉協議会
23	② 身近な地域での防災	和泉市社会福祉協議会
29	①「成年後見利用促進基本計画」の実施	市(福祉総務課)

大分類	中分類	計画ページ数	小分類 通しNo.	小分類	主担当	目標	令和5年度現状値	令和6年度目標	令和10年度 (目標値)	令和6年度取組内容【記述】	令和6年度実績	(1) 目標達成状況	目標達成状況要因【記述】	(2) 今後の方向性	今後の実施(予定)内容及び方向性等【記述】	(3) 進捗評価 (R10指標に対して)	
基本目標1 包括的で身近な相談、支援の仕組みづくり	1 情報発信、情報共有	P30	1	①「地域福祉基本・活動計画」の情報発信・共有	福祉総務課	業績目標		- 広報紙	広報紙 HP 市SNS 地域回覧板 ポスター	市ホームページにて第5次和泉市地域福祉基本・活動計画を公開した。視覚障がい者等も本計画の内容を知ることができるよう、音声読み上げ用データも公開した。	HP(ホームページ掲載)	②未達成	ホームページによる周知の方が、広報紙による周知より紙面の関係上、効果的であると考えた。	①拡充 ②継続	計画の周知を通して、自助共助公助の考え方を啓発するにはどのような手立てが必要かを検討していく。	②計画通りに進んでいる	
						成果目標		- 現状値確認	60%	①計画の内容を知っている 5% ②名称を知っている 16%	②効果的だった	現状値を把握できたため。					
						業績目標				第5次の初年度のため、社協いずみ(広報誌)で活動計画や校区別アクションプランに関する発信を2回行うと共に、市社協SNS等で協議の場での協議内容についての情報発信を行った。	18回	①達成	わかりやすさを工夫し情報発信を行った。				
						成果目標	10回	12回	15回	また、社協ボランティアを含む校区内の福祉活動を協働で進める団体には特に校区別アクションプランの認知が高まるよう関わる際には説明を心掛けた。							
	2 相談	P31	3	③ つながり、自らの発信に関する広報、研修	社会福祉協議会	業績目標					防災や成年後見制度、心配ごと相談所等に関する情報や活動についての発信を行った。	33回	①達成	わかりやすさを工夫し情報発信を行った。	①拡充	継続して発信を行うと共に、社会資源や相談窓口等を整理、可視化した上で、市民の方が情報を所得できるよう市社協ホームページの掲載を検討する。	②計画通りに進んでいる
						成果目標	15回	16回	20回	その結果、「どこに相談すればよいかわからない」「相談しているが解決の糸口が見つからない」などと市社協本部に来館または電話相談が入ることも多く、お話を内容を見極め関係窓口に繋いでいる。	48回	②効果的だった	丁寧な対応により相談者の満足度は高いと感じている。				
						業績目標					いきいきサロンや子育てサロンでの活動紹介を含む、各校区で実施される多世代交流活動についての情報発信を行った。	59回	①達成	広報誌やSNS等での情報発信に加え、校区別アクションプランの進捗や手法を共有できる「校区別アクションプラン報告会」を開催したことも多世代交流活動実績が増える要因と考える。			
						成果目標	18回	19回	22回	また、校区社協ボランティアを含む活動者に対しては、地域の中での多世代のつながりや交流の大切さについて折ってお伝えするよう心掛けている。	8回	②効果的だった		計画通り進めていく。			
	3 みまもり、発見	P33	5	① 身近な地域の相談窓口の設置	福祉総務課	業績目標		- 広報紙	広報紙 HP 市SNS 地域回覧板 ポスター	CSWの相談支援について広報で紹介し、周知発信を行った。	広報紙	①達成	広報紙の掲載に加え、CSWの地域活動への参加やこども若者向けのリーフレットの作成配布を行うなど、よりセーフティネットを広げるための活動を実施したためと考えられる。	①拡充	SNSや地域回覧板、ポスターでの周知の効果について再考し、CSWの認知度を高めるための効果的な方法を見出す。	②計画通りに進んでいる	
						成果目標	18%	20%	60%	①活動内容を知っている 13% ②名称を知っている 20%	②効果的だった						
						業績目標					広報紙やホームページを通じて、CSWの周知を行った。また、その他に学校などに対して個別に周知及び連携に関する意見交換を行った。	56%	②効果的だった				ホームページによる周知の方が、広報紙による周知より紙面の関係上、効果的であると考えた。
						成果目標		- 現状値確認	60%								現状値を確認できたため。
4 解決	P34	6	② 身近な相談窓口の周知啓発	福祉総務課	業績目標		- 広報紙	広報紙 HP 市SNS 地域回覧板 ポスター	CSWの相談支援について広報で紹介し、周知発信を行った。	広報紙	①達成	広報紙の掲載に加え、CSWの地域活動への参加やこども若者向けのリーフレットの作成配布を行うなど、よりセーフティネットを広げるための活動を実施したためと考えられる。	①拡充	SNSや地域回覧板、ポスターでの周知の効果について再考し、CSWの認知度を高めるための効果的な方法を見出し、必要に応じて業績目標の変更を検討する。	②計画通りに進んでいる		
					成果目標	18%	20%	60%	①活動内容を知っている 13% ②名称を知っている 20%	②効果的だった							
					業績目標					市社協ホームページの大きなリニューアルは行ったが、詳細についての修正が必要な状況。	HPのリニューアル	①達成				まだまだ不足はあるが、予定通りホームページのリニューアルはおこなった。	
					成果目標		-	3校区	21校区	市社協ボランティア及び民生委員・児童委員対象5月見守る眼のポイント学習会(講師新崎国広氏)、3月石川県志賀町社協から学ぶ平時からの見守り活動の大切さ(講師志賀町社協)	2校区	②効果的だった				チラシに、見守り隊の活動に併せ、活動者の募集を行った。結果、1校区では児童会が見守り隊感謝祭を実施、1校区では新たな見守り隊員の加入があった。	②継続
4 解決	P35	7	③ 社会資源や相談窓口の「見える化」	社会福祉協議会	業績目標	社協HP	社協HP リニューアル	社協HP 広報紙 市共有ソフト充実	市社協ホームページの大きなリニューアルは行ったが、詳細についての修正が必要な状況。	HPのリニューアル	①達成	まだまだ不足はあるが、予定通りホームページのリニューアルはおこなった。	②継続	市社協ホームページの拡充に向け、社会資源マップや子どもページなどの設置を進める。	②計画通りに進んでいる		
					成果目標				社会資源のマップ化については、2校区で登校時の見守り隊の活動拠点を可視化し、地域住民に見守り隊の重要性をお伝えするチラシを作成し配布した。	2校区	②効果的だった	チラシに、見守り隊の活動に併せ、活動者の募集を行った。結果、1校区では児童会が見守り隊感謝祭を実施、1校区では新たな見守り隊員の加入があった。					
					業績目標					ふれあい配食サービスの見直しを行うため、見守り検討会議を開催し、令和6年6月より「ふれあい訪問」を開始した。	14回	①達成				社協会長や社協ボランティアを委員とする見守り検討会議に加え、民児協にも意見を求め協議を進めることで、今後地域での見守り活動での民児協との協働について考えるきっかけとなった。	
					成果目標		1箇所	3箇所	5箇所	ふれあい配食サービスを実施していた19校区すべてで新たな体系での活動が順調に開始している。	19校区	①十分効果的だった				見守り検討会議での協議内容等を関係するボランティア等と随時共有することで、理解が深まりスムーズに移行することができた。	
4 解決	P36	9	②「みまもり眼」のポイント学習会	社会福祉協議会	業績目標	2回	3回	5回	社協ボランティア及び民生委員・児童委員対象5月見守る眼のポイント学習会(講師新崎国広氏)、3月石川県志賀町社協から学ぶ平時からの見守り活動の大切さ(講師志賀町社協)	3回	①達成	研修会にて「見守りの基本視点」や「平時の活動が災害時にはとても意味のあるものになること」を伝え、地域での見守り活動の重要性についての理解を深めることができた。	②継続	次年度は、見守りの視点や手法についての理解が深まるよう「個人情報保護」や「共生社会」についての研修会開催に向け調整していく。	②計画通りに進んでいる		
					成果目標		(R10)達成度を評価)	50%	市社協職員対象コミュニケーション学習会(講師金田善弘氏)								
					業績目標					『協議の場』の開催支援を行った。また、校区別アクションプランを意識づけられるよう、開催冒頭には校区社協活動の意義や校区別アクションプランについて、参加者と共有するよう心掛けた。	11校区	①達成				19校区が協議の場を開催。開催がかなわなかった2校区については、令和7年度での開催に向け校区内コアメンバー間での話し合いを重ねることができた。	
					成果目標		- 現状値確認	15校区	15校区	12月9日に「校区別アクションプラン実践報告会」を開催。2校区による活動事例の発表と21校区の進捗状況をパレル化して掲示した。	21校区	①十分効果的だった				また、21小学校区全てにおいて校区別アクションプランを主眼に置き地域活動を進めることができ、3つある重点取組み内、具体的な取組みとして提示する項目の内1つもしくは2つを達成することができた。	
4 解決	P37	10	① 各小学校区の『協議の場』の充実	福祉総務課・社会福祉協議会	業績目標	3~5校区	6校区	21校区	『協議の場』の開催支援を行った。また、校区別アクションプランを意識づけられるよう、開催冒頭には校区社協活動の意義や校区別アクションプランについて、参加者と共有するよう心掛けた。	11校区	①達成	19校区が協議の場を開催。開催がかなわなかった2校区については、令和7年度での開催に向け校区内コアメンバー間での話し合いを重ねることができた。	②継続	引き続き、校区への支援を校区担当中心に丁寧に行う。令和6年度に引き続き、「校区別アクションプラン実践報告会」を行い、活動への動機づけと手法の共有を行う。	②計画通りに進んでいる		
					成果目標		- 現状値確認	15校区	15校区	12月9日に「校区別アクションプラン実践報告会」を開催。2校区による活動事例の発表と21校区の進捗状況をパレル化して掲示した。	21校区	①十分効果的だった				また、21小学校区全てにおいて校区別アクションプランを主眼に置き地域活動を進めることができ、3つある重点取組み内、具体的な取組みとして提示する項目の内1つもしくは2つを達成することができた。	
					業績目標					協議の場での校区別アクションプランを進めるための話し合いにて、具体的な活動が産み出され、補助金の活用件数が伸びた。	19校区	②未達成				協議の場は19校区のみが開催。残り2校区については、開催に至らなかったがそれぞれ開催に向けての話し合いを校区の代表者間では行うことができた。	
					成果目標	5校区	5校区	7校区	7校区	協議の場での校区別アクションプランを進めるための話し合いにて、具体的な活動が産み出され、補助金の活用件数が伸びた。	11校区	①十分効果的だった					次年度は、21校区全てで協議の場が開催され、補助金の活用件数も増やし、地域活動が活性化できるよう校区担当中心に支援を進めます。
4 解決	P38	12	③ 地域福祉の財源確保	社会福祉協議会	業績目標		-	3件	4件	ホームページでの助成金情報の発信や相談者への情報提供を行った。	4回	①達成	助成金申請団体の一定数が固定化(子ども食堂)してきている。	②継続	市民による地域活動を進めるうえで有効な助成金は多くあるため、市社協がつかんだ情報は早くホームページに掲載できるように法人内での連携を図る。	②計画通りに進んでいる	
					成果目標	24件	24件	26件	また、助成金申請にあたり市社協の推薦が必要なケースに至っては推薦状の作成を行うなどの活動の後押しを行った。	19件	②効果的だった	同一団体(子ども食堂)が、複数の助成金を申請していたが、活用しやすい助成金1本に絞る傾向が増えたことで助成金申請等の支援件数が減少している。					
					業績目標					ホームページでの助成金情報の発信や相談者への情報提供を行った。	4回	①達成	助成金申請団体の一定数が固定化(子ども食堂)してきている。				
					成果目標	24件	24件	26件	また、助成金申請にあたり市社協の推薦が必要なケースに至っては推薦状の作成を行うなどの活動の後押しを行った。	19件	②効果的だった	同一団体(子ども食堂)が、複数の助成金を申請していたが、活用しやすい助成金1本に絞る傾向が増えたことで助成金申請等の支援件数が減少している。					

大分類	中分類	計画ページ数	小分類 通しNo.	小分類	主担当	目標	令和5年度現状値	令和6年度目標	令和10年度 (目標値)	令和6年度取組内容【記述】	令和6年度実績	(1) 目標達成状況	目標達成状況要因【記述】	(2) 今後の方向性	今後の実施(予定)内容及び方向性等【記述】	(3) 進捗評価(R10指標に対して)	
基本目標2 切れ目ない・こぼれない支援の仕組みづくり	1 支援	P39	13	① 生活困窮者自立支援・就労支援	くらしサポート課	業績目標 新規相談受付件数のうち、プラン作成した割合	-	25%	50%	生活困窮者を幅広く受け止め、課題解決型・伴走支援型それぞれのケースにあわせ相談者本人の意向に沿ったプランを作成し、課題の解決に向けた方向性を確定、支援を行った。	26.53%	①達成	本人の意向に沿ったプラン作成により日常生活自立・経済的自立・社会生活自立を目指した支援を行うことで、より多くの生活困窮者の自立と尊厳の確保ができる。一方で、ひきこもり当事者など、支援を求めている方や発信できない方へのアプローチに加え、支援をしながら本人の想いを確認することの困難さや自立に向けた意欲向上のサポートなど効果的な支援を行うための課題も	②継続	今後も引き続き、本人に寄り添いながら信頼関係を構築することで、本人の想いを確認し、意向に沿ったプランを作成し支援を行う。地域の自立相談支援機関に対しても相談員の資質向上に努めることもあわせて行うことで、目標値の達成を継続する。	②計画通りに進んでいる	
						成果目標 プラン作成者のうち、自立に向けての改善が見られた者の割合	-	90%	90%		88%	②効果的だった					地域(CSW)での評価が不足していたことで目標値には至らなかったものの市全体では目標値に近い達成状況となっている。
	2 拠点、居場所の整備	P40	14	② 日常生活自立支援事業	社会福祉協議会	業績目標 周知活動の件数	1件	1件	3件	市社協が10月から『いずみ成年後見人サポートセンター』を受託したことから、社協いずみ(広報誌)10月号と1月号や市社協SNSにて、サポートセンターや日常生活自立支援事業についての周知記事を掲載した。	4回	①達成	日常生活自立支援事業だけでなく、判断能力が低下した方の権利を守る体制整備を併せて進めた。	①拡充	次年度は、日常生活自立支援事業の利用申請の段階で利用の可否を判断できるチェックリスト等を作成し待機者を減らすことができるよう検討していく。	③計画に対して進んでいない	
						成果目標 日常生活自立支援事業の待機者数	32人	20人	5人		30人	③あまり効果的でなかった					日常生活自立支援事業の待機者についてのアプローチは行うものの新規利用申込者が多く待機者を減らすことができなかった。
	P40	15	① 拠点整備	福祉総務課 子育て支援室 高齢介護室 障がい福祉課 人権・男女参画室	業績目標 整備方針の策定及び実施	-	様々な対象が集う居場所、拠点整備の在り方方針の策定	同方針の実施	回答不要	同目標の設定	5件	①達成	新たな居場所づくりを考えられる方たちへの立ち上げ支援や活動の継続支援を引き続き行う。	②継続	地域の居場所づくりについて様々なニーズがあると考えられ、関係機関等とも連携し、誰でも参加できる居場所づくりの充実に向け支援していく。	②計画通りに進んでいる	
					成果目標 分野ごとに設定	-	・こども若者 ・老人集会所等公共施設の地域福祉拠点化 ・地域資源の見える化とマッチング ・創発の場開発推進の設定	5件									①十分効果的だった
P41	16	② 誰もが参加できる居場所づくり	社会福祉協議会	業績目標 サロンや居場所づくりの立ち上げ支援数	5件	5件	5件	子育てサロン1件、いきいきサロン1件、子ども食堂3件の立ち上げ支援を行った。	5件	①達成	5件	①十分効果的だった	新たな居場所づくりを考えられる方たちへの立ち上げ支援や活動の継続支援を引き続き行う。	②継続	地域の居場所づくりについて様々なニーズがあると考えられ、関係機関等とも連携し、誰でも参加できる居場所づくりの充実に向け支援していく。	②計画通りに進んでいる	
				成果目標 立ち上がったサロン数や居場所の数	3件	3件	4件		5件	①十分効果的だった							
基本目標3 多様な主体どうしの連携による担い手・社会資源の創造	P42	17	① 「新しい公共」創発の場の開発と重層的支援(地域づくり)	福祉総務課 人権男女参画室	業績目標 創発の場重層的支援推進	-	推進方針の策定 「地域づくり」方針の実施	推進方針の策定 「地域づくり」方針の実施	「創発の場」の開発について検討を行い、庁内関係各課と連携・調整を図りながら、「創発の場」の開発推進方針を策定した。	「創発の場」の開発方針を策定。(令和6年12月)	①達成	第5次地域福祉計画における「新しい公共」創発の場の開発と重層的支援を踏まえ、「創発の場」開発方針の考え方を定めた。	②継続	令和7年度に「創発の場」の開発に向けた機運醸成イベントを開催予定。	②計画通りに進んでいる		
					成果目標 社会資源等拡充 実感市民割合	-	現状値確認	前年度比 5%増		①とても感じる 6% ②やや感じる 20%	令和6年度は「創発の場」開発方針を策定した。令和7年度に機運醸成イベントを開催予定(令和8年2月)であることから、イベントを通して啓発に努める。						
	P43	18	② 地域福祉活動の担い手づくり	広報協働推進室	業績目標 ボランティア養成講座開催数	-	ボランティア養成講座開催	ボランティア養成講座開催	和泉ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」にて、ボランティアの需給調整、ボランティア・市民活動の普及・啓発・人材育成を図るための講座や市民と連携した協働事業の実施、ボランティア登録を通してボランティア・市民活動団体の活動支援等に取り組んだ。	ボランティア養成講座の開催	①達成	144件中124件成立(86%)	②効果的だった	各専門部会からの企画案や、アドバイザーの視点によりニーズに即した講座を開催したため。	②継続	「アイ・あいロビー」において、アンケート調査等により地域の状況やボランティア・市民活動団体のニーズを把握し情報を収集することで、各事業の見直しを図りながら講座やイベントに取り組む。また、「アイ・あいロビー」の事業内容の広報を行い、登録ボランティア・市民活動団体の増加、ボランティアアドバイザーの確保に努めると共に、ボランティア依頼件数回復を目指していく。	②計画通りに進んでいる
					成果目標 ボランティア依頼件数に対する成立件数の割合	-	現状値確認	90%		②効果的だった							
	P43	19	③ 地域貢献連絡会の開催およびNPO、事業者、社会福祉法人の社会貢献活動と地域活動との融合	社会福祉協議会	業績目標 地域貢献連絡会開催件数	1回	2回	3回	地域貢献連絡会では、児童・高齢・障がいに携わる社会福祉法人が参画している。それぞれが行う社会貢献活動等の共有の場になっている。今年度は、初めて社会福祉のついで社協のおまつりでの舞台発表に1法人が参加していただけた。	2回	①達成	1回	①十分効果的だった	地域貢献連絡会を年に2回開催することが定着した。	②継続	次年度は、地域貢献連絡会の運営について参画する法人に主体的に考えていただけるようアプローチしていく。	②計画通りに進んでいる
					成果目標 地域貢献連絡会やNPO等と協働活動件数	1回	1回	2回		①十分効果的だった	社協のイベントに協力することも社会貢献のひとつであり、社協と共に地域活動を進める意義を理解していただく機会となった。						
P44	20	④ 担い手講座の開催	社会福祉協議会	業績目標 新たな担い手場づくり活動支援	3回	3回	5回	2種類の担い手講座の開催と、年輪大学院チャレンジボランティアの活動調整、福祉教育受講の小学生のボランティア活動支援を実施。	4件	①達成	21人	①十分効果的だった	『子ども食堂＆子どもの居場所立ち上げ応援講座』については、講座終了後に3か所子ども食堂が立ち上がった。いずみあがり講座については、参加者は少なかったものの終了後も継続して活動している家族がいる。	②継続	担い手講座については、次年度定年退職後に地域との関係が希薄になりがちな60歳以上の高齢者を対象とした趣味活動から地域とのつながりを深めることができる担い手講座の開催に向け検討する。	②計画通りに進んでいる	
				成果目標 担い手講座受講後地域福祉活動につながった人数	5人	10人	30人		①十分効果的だった	年輪大学院卒業生が元気隊として活動を続けていることも大きな成果。							
P45	21	④ 地域福祉活動の負担感の軽減	社会福祉協議会	業績目標 対策や支援を行った件数	-	2件	2件	子育てサロンボランティア等への個別の聞き取りによる活動の実態把握や課題整理を行った。また、小地域ネットワーク活動補助金の清算に係る作業が難しいとお声を聞くことが多いため、年度初め5月と2月に説明会を実施した。	2回	①達成	2回	①達成	・子育てサロンへの聞き取り調査を実施。参加者の減少や担い手不足、プログラムの組み立てへの課題などが上がった。 ・小地域ネットワーク活動補助金精算説明会で理解が深まり、修正等の依頼を行う件数が減少した。	②継続	子育てサロンに通いは少子化や共働き世帯が増えたことにより、参加者が減少傾向にある。ただ、必要とされる方もおられるため、既存サロン活動を継続できるよう支援を続ける。	③計画に対して進んでいない	
				成果目標 社協と活動するボランティア数	校区社協ボランティア 1,220人	校区社協ボランティア 1,220人	校区社協ボランティア以外の担い手を含む 1400人		③あまり効果的でなかった	ボランティアの高齢化による減少。							

大分類	中分類	計画ページ数	小分類 通しNo.	小分類	主担当	目標	令和5年度現状値	令和6年度目標	令和10年度 (目標値)	令和6年度取組内容【記述】	令和6年度実績	(1) 目標達成状況	目標達成状況要因【記述】	(2) 今後の方向性	今後の実施(予定)内容及び方向性等【記述】	(3) 進捗評価 (R10指標に対して)
基本目標4 誰もが、自分らしく、安心して、楽しく暮らせるまちへ	1 防災	P46	22	①「避難行動要支援者支援体制」の構築支援	福祉総務課	業績目標 近隣の支援者が決まっている避難行動要支援者の数	120名	440名	1,300名	毎年開催の事業説明会にて、地域の支援者に対し、近隣の支援者登録の呼びかけを行った。	117人	②未達成	近隣の支援者の登録には、要支援者本人の自助の考えが必要であり、地域の支援者だけでなく要支援者への啓発が必要であると考えられる。	②継続	近隣の支援者が必要な要支援者の把握に努め、また並行して登録の動員を進めていく。	②計画通りに進んでいる
						成果目標 避難行動要支援者が避難できる地域防災体制があると感じる市民の割合	-	20%	60%		①とても感じる 6% ②やや感じる 21%	②効果的だった	地域の支援者に要支援者への見守りを行っていただいていることで、支援体制が整っていると感じる人が多いのではないかと考えられる。			
		P46	23	②身近な地域での防災	社会福祉協議会	業績目標 防災に関する学習会 仕組みづくりを支援した回数	5回	5回	8回	『減災のすゝめ』防災時に使える応急手当『防災クッキング』3種類の啓発冊子を作成した。作成した冊子については地域包括支援センターや生活支援コーディネーター、CSWとも共有し地域住民への啓発に活用した。また、校区別アクションプランで防災への取り組みを掲げている校区は多く、校区での防災訓練や町別実態調査など活動の支援を行った。	10回	①達成	各地で起こる大災害やいつか来るであろう南海トラフ地震に対する危機感を抱いている市民は多く、校区社協ボランティアを中心に活動者への動機づけを啓発冊子や研修会の開催などを通して実施した。また、市危機管理課が行う「防災とボランティア市民の集い」にて、全世帯を巻き込む「訓練」を行うには、地域の大きなお祭りやイベントに併せて面白く防災・減災の要素を盛り込めることが大切との教訓を受け、校区の活動支援時には実践。その結果、多世代多くの参加を得ることができている。	②継続	引き続き、校区ごとの実践支援を行うと共に、社協いずみ(広報誌)等で防災・減災に関する記事掲載し、広く市民の意識醸成を図る。避難行動要支援者を巻き込んだ防災訓練については、要支援者自身から地域への発信の必要性の周知も含め関係機関と連携し進めていく。	②計画通りに進んでいる
						成果目標 支援が必要な方を含む防災訓練等の活動支援回数	1回	1回	3回		6回	①十分効果的だった				
	P47	24	③福祉避難所の登録	福祉総務課 高齢介護室 障がい福祉課	業績目標 福祉避難所の登録数	2箇所	福祉避難所 設置方針策定・実施	21箇所	福祉避難所についての共通認識を図り、各課と協議を進め課題解決に取り組む。	福祉避難所設置方針策定・実施できなかった	②未達成	関係課が集まり、課題解決に向け、現状把握・方向性の認識合わせ、ポイントの整理を行っている段階であり、福祉避難所の設置には至っていない。	①拡充	身近な地域の福祉事業者などに協力を呼びかけ福祉避難所の登録を推進する。	③計画に対して進んでいない	
					成果目標 福祉避難所が整備されると感じる市民割合	-	現状値確認	60%		①とても感じる 3% ②やや感じる 16%	③あまり効果的でなかった					
	P48	25	④災害ボランティアセンターの設置運営	社会福祉協議会	業績目標 市社協主催会議等を設置し 協働イメージ共有を進める	-	話しあいの場設置 協働のイメージが整理できている	和泉市で大災害が発生したとき、初動・復旧・復興、それぞれのフェーズに於いて、災害ボランティアセンター運営が迅速かつ効果的に行われることを目的に、災害時のボランティア活動に協力いただける企業や団体と協議を平時から進める『災害ボランティアセンター協働ネットワーク会議』を設置しました。	災害ボランティアセンター協働ネットワーク会議2回	①達成	ライオンズクラブをはじめ16団体の理解を得て、災害ボランティアセンター協働ネットワーク会議を設置することができ、それぞれの団体の強みや経験を共有し、協働に向けた歩みをスタートできた。	②継続	災害ボランティアセンター協働ネットワーク会議については、平時から備えるべき事柄などを整理・共有すると共に新たな参画団体の検討を行い、発災時のスムーズな運営を目指す。また、設置訓練については、運営マニュアルの検証を進める場とすべく多角的な視点で検証していく。	②計画通りに進んでいる		
					成果目標 設置運営訓練への参加団体等拡充	-	災害ボランティア養成講座等を開催し市民の認知度及び協力を仰ぐ 様々な災害を想定した設置・運営訓練を年に1回行う		災害ボランティアセンター設置運営訓練1回	③あまり効果的でなかった	アイ・あいロビーが主導での設置運営訓練に協力。					
	P49	26	①街頭や公共施設での救命救急	消防本部	業績目標 登録件数	-	地域助け合い事業方針の策定 同方針実施	和泉市内で自動体外式除細動器「AED」を設置している施設や事業所に登録してもらい、その情報を市民に提供することでAEDの市民による使用を促進し救命率を高める事業であり、事業初年度の取り組み内容としては要綱の作成を経た上で市内各種団体を通じた募集呼びかけや各種広報媒体を用いた募集により登録を推進し、消防指令センターへ指令台へ登録やホームページ等の広報や各種イベントでの説明により、広く市民に情報提供した。また、市民の割合	公共施設への登録依頼、和泉市防災協会や和泉市医師会・歯科医師会・薬剤師会等を通じた登録依頼により、令和6年度登録施設は157施設167台の登録を行いました。	①達成	事業初年度としては、要綱の策定や関係書類の作成に始まり、どのような広報により登録が伸びるかなど精査する部分が多かったが、やはり団体を通じた大きなイベント場所での説明や広報により、それを傾聴してくれた各種団体からの理解や促進により登録数に繋がったと思慮します。	②継続	和泉市内での当面の登録数を300施設数に設定し、昨年度登録依頼した団体引き続き、各種団体や組合等を通じた登録依頼、救急指導や立入検査及び老健施設等の訪問時等機会を捉えた登録案内、また警備課職員によりAEDを設置している事業所を探索する市内一円を走り回り、飛び込みでの個別訪問による登録案内を実施し、登録数を大幅に増やす予定であり、これにより「地域でAEDを見かけるようになった市民の割合」も増加させる予定です。	②計画通りに進んでいる		
					成果目標 地域でAEDを見かけるようになった市民の割合	-	現状値確認		60%	62%	①十分効果的だった					
	P50	27	④「再犯防止推進計画」の推進	生活福祉課	業績目標 更生保護サポートセンター運営支援	現状支援状況の確認	運営支援の継続	運営支援の継続	和泉地区保護司会及び和泉市更生保護女性会に対し活動に係る支援を継続して実施した。更生保護サポートセンター移転に係る支援を実施した。	運営支援の継続	①達成	和泉地区保護司会及び和泉市更生保護女性会にヒアリングを実施した。役員の高齢化による交通費等の実費弁償を充実してほしいという希望を把握することができた。	②継続	和泉地区保護司会及び和泉市更生保護女性会に対し活動に係る支援を継続実施する。支援の内容を適宜見直しを図る。	②計画通りに進んでいる	
					成果目標 保護司会・保護女性会役員の市支援に対する満足度	-	現状値確認	80%		75%	②効果的だった					
P50	28		(生活福祉課) 更生保護団体	業績目標 社会を明るくする運動 参加人数の拡大	-	現状値確認	前年度比 5%増	毎年7月は社会を明るくする運動強化月間となっている。令和6年7月6日に社会を明るくする運動推進大会を開催。(参加人数190人)市内を5つのブロックに分け街頭啓発活動を実施した。(参加延べ人数55人)地域住民を対象とした出前講座を実施した。(参加人数15人)	260人	①達成	市町会連合会に対し、社会を明るくする運動推進大会への参加を呼びかけたため。	②継続	会場の規模も関係するため大幅な増加は難しいが、社明運動推進大会への参加要請など市ができる支援は継続していく。	②計画通りに進んでいる		
				成果目標 更生保護活動の認知度	6.0%	10%	30%		①活動内容を知っている 16% ②名称を知っている 37%	②効果的だった	社会を明るくする運動や街頭啓発といった地域住民に対して行う活動が、更生保護活動の認知度を上げる結果につながっていると思考する。					
P51	29	①「成年後見利用促進基本計画」の実施	福祉総務課 高齢介護室 障がい福祉課	業績目標 成年後見利用促進 基本計画の実施	計画策定	計画実施	計画実施	令和6年10月から市社協に委託して中核機関を設置。制度について、関係機関や専門職に対して周知啓発を行った。また、個別相談対応とケース検討を実施し、対応力向上に努めた。	成年後見利用促進基本計画の5項目のうち、制度の周知啓発、支援の推進に取り組んだ。サロンや体操の場での出前講座、民生委員定例会、家族会、大学ゼミでの周知啓発14件UR相談会での出張個別相談個別相談対応68件	①達成	中核機関による周知啓発では、権利擁護をラインとしてとらえ、後見単独よりも、消費者被害防止やACP等とセットで啓発した為、開催件数増加につながった。	①拡充	高齢者の望む生活が切れ目のないよう任意後見制度や、判断能力低下後も本人の意向ができる限り反映できるように成年後見制度等の普及啓発を市民に対して行う。早期発見支援につながるよう、関係機関と体制整備をすすめる。また、市長申立件数や市民後見人の育成人数も目標を達成できるよう、成年後見制度利用促進協議会等で議論し方策を検討していく。	②計画通りに進んでいる		
				成果目標 成年後見制度認知度	29%	35%	50%		①制度内容を知っている 43% ②名称を知っている 38%	②効果的だった						

大分類	中分類	計画ページ数	小分類 通しNo.	小分類	主担当	目標	令和5年度現状値	令和6年度目標	令和10年度 (目標値)	令和6年度取組内容【記述】	令和6年度実績	(1) 目標達成状況	目標達成状況要因【記述】	(2) 今後の方向性	今後の実施(予定)内容及び方向性等【記述】	(3) 進捗評価(R10指標に対して)	
5 教育	P51	30	① 福祉と教育との連携	福祉総務課 子育て支援室 学校教育室	業績目標 教育と福祉のデータ連携を行った 中学校区数(全10校区)	—	—	現状値確認	10校区	教育と福祉のデータ連携事業を実施し、市長部局と教育委員会が保有しているデータから、虐待などのリスクが高い子どもを抽出した。モデル校2中学校、5小学校では教員によるスクリーニングを実施し、その結果も加味し、学校が福祉的な支援が必要と判断した児童生徒29人について要保護児童対策地域協議会に登録し、支援を開始した。	2校区	①達成	学校が把握している情報・気付きと、行政の福祉部局が把握している情報とをあわせて、対象児童の抽出や支援方針検討に活かすことができたため。	①拡充	スクリーニングを実施する学校を拡大し、データから把握した虐待リスクの高く福祉的な支援が必要な児童生徒について要保護児童対策地域協議会に登録し、支援を行う。	②計画通りに進んでいる	
						—	—	現状値確認	前年比5%増	29件	②効果的だった						
	P52	31	② 福祉学習プログラムの企画と実施	社会福祉協議会	業績目標 子どもを含む地域住民対象とした福祉学習を行った件数 成果目標 福祉学習受講後に地域での福祉活動体験等に繋がった件数	小学校 4校区 その他1回	小学校 8校区 その他1回	—	2件	4件	12件	小学校14校 親子福祉体験1回	①達成	市社協独自のふくし基本講座教材をベースに、小学校教職員の意向を踏まえ内容をカスタマイズし、地域活動者との交流や活動体験などを展開した。	②継続	福祉教育に関する研修会等に参加し、他地域の社協職員とともに「社協が取り組む福祉教育機能」についての情報共有や相互学習を行いました。次年度は、まずは小学校対象とした地域を交えた福祉教育プログラムの具体的な検討を進めた。	②計画通りに進んでいる
						—	—	2件	4件	12件	3件	③あまり効果的でなかった	市社協職員と小学校教職員の間でのふくし教育に関する考え方の相違があることが課題。				
	P53	32	④ 環境意識の高揚にかかる啓発	環境保全課	業績目標 和泉市環境基本計画の実施 成果目標 環境にやさしい暮らしを営んでいると思う市民の割合	—	—	—	和泉市環境基本計画実施	和泉市環境基本計画実施	脱炭素化推進のため、広く市民からIZUMIゼロカーボン宣言を募集するとともに、IZUMI再エネ100電力切替奨励金や和泉市再エネ・省エネ機器設置促進事業補助金を交付した。 環境への意識啓発のため、自然観察会や環境フェスタを実施した。	「和泉市環境基本計画」実施	①達成	取組内容が成果目標に即反映されない点、世情によって市民感情が大きく上下する点が課題ではあるものの、令和6年度から広く市民からIZUMIゼロカーボン宣言を募集するなど、環境意識の高揚に効果的な事業を実施している。	②継続	引き続き、脱炭素化推進のため、広く市民からIZUMIゼロカーボン宣言を受付するとともに、IZUMI再エネ100電力切替奨励金や和泉市再エネ・省エネ機器設置促進事業補助金を交付する。 環境への意識啓発のため、今後も自然観察会や環境啓発イベントを実施する予定。	②計画通りに進んでいる
						—	—	—	前年度比 5%増	①そう思う 12.5% ②どちらかと言えばそう思う 47.2%	②効果的だった						

大分類	中分類	計画ページ数	小分類 通しNo.	小分類	主担当	目標	令和5年度現状値	令和6年度目標	令和10年度 (目標値)	令和6年度取組内容【記述】	令和6年度実績	(1) 目標達成状況	目標達成状況要因【記述】	(2) 今後の方向性	今後の実施(予定)内容及び方向性等【記述】	(3) 進捗評価 (R10指標に対して)		
基本 目標 5 地域 共生 社会の 実現に 向けて の機運 醸成、 意識改 革	1 マネ ジメ ント	P54	33	① 基本計画(地域福祉基本・活動計画、その他の各基本計画) 中心のマネジメント	市各部署	業績目標 各「基本計画」に基づく進捗管理 成果目標 「基本計画」に基づく進捗管理が適切だと感じている 各「基本計画」外部委員割合	基本計画策定	各「基本計画」に基づく進捗管理	各「基本計画」に基づく進捗管理	70%	回答不要							
	2 意識 改革	P55	34	① 高齢者の日常生活支援	高齢介護室	業績目標 高齢者日常生活支援の主力発信メディア拡充 成果目標 高齢者支援充実の必要性を理解している市民、市職員、関係機関スタッフの割合		— 広報紙	広報紙 HP 市SNS 地域回覧板 ポスター	地域包括支援センターと連携し、各関係機関並びに市民に対して高齢者支援サービスパンフレットを配布するなど、周知啓発を図る。	広報紙	①達成	ちよいさほのドライバー研修を行う中で、制度に関する市民の問い合わせや研修参加、新たな人材育成につながった。	②継続	地域包括支援センターと連携し、各関係機関並びに市民に対して高齢者支援サービスパンフレットを配布するなど、周知啓発を図る。	②計画通りに進んでいる		
		P56	35	② 「自助、共助、公助」の連携	福祉総務課	業績目標 「自助、共助、公助」についての主力発信メディア拡充 成果目標 自助、共助、公助の必要性を理解している市民、市職員、関係機関スタッフの割合		— 広報紙	広報紙 HP 市SNS 地域回覧板 ポスター	未実施	未実施	②未達成	自助共助公助のみを取り上げて周知啓発するのではなく、本計画を周知していくことで、市民・職員に自助共助公助の意識付けができるのではないかと考えたため、広報紙への掲載は行わなかった。					
		P57	36	③ 圏域	福祉総務課 子育て支援室 くらしサポート課	業績目標 既存の圏域検証と新しい単位の検討 成果目標 年度報告書作成		— 「検証」「検討」方針策定	「検討」	回答不要								
		P58	37	④ 市職員の人材育成	福祉総務課	業績目標 能力向上評価のためのオンライン学習の実施 成果目標 オンライン学習により企画・実行能力事務能力が向上したと感じる職員の割合		— オンライン学習の開発	オンライン学習の実施(年4回)	回答不要								
		P59	38	⑤ 機運の醸成、市民意識の涵養	人権・男女参画室	業績目標 「多様性」の重要性についての主力発信メディア拡充 成果目標 地域福祉に欠かせない「多様性」に対する市民の理解度		— 広報紙	広報紙 HP 市SNS 地域回覧板 ポスター	ダイバーシティ・インクルージョンに係る情報発信について、実施しなかった。	「(仮称)第2期人権教育・啓発推進計画策定方針」及び「(仮称)第4期男女共同参画行動計画策定方針」を策定	「(仮称)第2期人権教育・啓発推進計画」及び「(仮称)第3期和泉市男女共同参画行動計画」「和泉市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の支援に関する基本計画」次期計画を策定予定のため、ダイバーシティ・インクルージョンについて、情報発信の検討に至らなかった。	②未達成	令和8年度に計画期間が終了する「和泉市人権教育・啓発推進計画」及び「(仮称)第4期男女共同参画行動計画」において、ダイバーシティ・インクルージョンの情報発信の方向性について検討する。	②継続	令和8年度に策定する「(仮称)第2期人権教育・啓発推進計画」及び「(仮称)第4期男女共同参画行動計画」において、ダイバーシティ・インクルージョンの情報発信の方向性について検討する。	③計画に対して進んでいない	
	3 組織 の強 化、 支 援	P60	39	① 市行政組織	福祉総務課	業績目標 福祉の現場課題解決プロジェクトチームでの検討 成果目標 特別職による検討業績の評価	現状支援状況の確認	プロジェクトチームでの検討	新たな課題設定	回答不要								
		P61	40	② 民生委員・児童委員、主任児童委員	福祉総務課 社会福祉協議会	業績目標 民生委員児童委員主任児童委員の協議の場への参画割合 成果目標 民生委員児童委員主任児童委員の認知度	33%	— 現状値確認	100%	60%	認知度向上に向けては、令和7年度の一斉改選を見据えて、広報いずみでの特集や民児協いずみを発行した。また、庁内デジタルサイネージや生涯学習センターのマルチビジョンでのPR動画上映などにより広く周知を図った。(協議の場への参画については、令和6年度は現状値確認)	約95%(全21校区中19校区で開催、うち18校区で民生委員が参画)	①達成	令和6年度は現状値確認。	②継続	協議の場への参画割合を100%にするため、引き続き社協と連携して、協議の場の必要性や意義を民生委員に伝えていく。	②計画通りに進んでいる	
		P62	41	③ 市社協	社会福祉協議会	業績目標 市社協組織運営強化をプロジェクトチームで検討 成果目標 理事会、評議員会による検討業績の評価		— 「プロジェクトチーム」での検討	新たな取組みや必要に応じて組織改革実施	地域福祉関連事業のみを行っていた市社協が、平成23年度頃から市の各種社会福祉事業を受託するようになり、更に福祉社を統合後はその傾向は強くなっていく。まずは職員が、現在の市社協が置かれている状況を把握し、今後の事業展開や市社協の役割等について考えるために、勉強会や研修会に参加した。	管理職向け勉強会の実施 1回 2回 研修会への参加	①達成	日々の業務に追われ、将来を見据えた市社協の役割や事業展開を検討する時間を確保できなかった。	②継続	これからの社会に求められる市社協の役割・事業展開を検討していく。そのための時間の確保や中心メンバーを育成するため、研修に取り組んでいく。	③計画に対して進んでいない		
	4 体制 の整 備	P63	42	① 「医療のまち」ブランド	健康づくり推進室	業績目標 市行政に医療施策担当の仕組みを構築 成果目標 和泉市は医療が充実していると感じる住民割合		— 方針の策定	方針の実施	令和7年度より、病院経営管理担当において、泉州医療、三師会、和泉診療所などの医療に関する業務を担当する方向性を決定した。	部署内で、医療に関する業務を担当する方向性を決定した。	①達成	当初の目標どおり部署内で、医療施策担当を決定することができた。	②継続	・地域包括ケアシステム推進へ協力 ・医介連携推進につき高齢介護室と協力 ・大阪母子医療センターとの連携を通じて構築に取り組む	②計画通りに進んでいる		
P64		43	② 小学校区単位の協働・みまもり体制	社会福祉協議会	業績目標 小学校区単位で顔の見えるみまもり体制が整う 市社協と多機関がみまもりについて話し合った回数 成果目標 小学校単位の情報交換や見守り活動参加機関拡充		— 機関ごとのみまもりに関する課題調査	小学校区単位で顔の見えるみまもり体制が整う	ふれあい配食サービスからふれあい訪問への移行に際して、社協ボランティアにアンケート調査を実施。また、3校区ではあるが「みまもり」をキーワードとして協議の場での話し合いを行った。民児協ともみまもりについての協働が重要であることを確認する。	みまもりに関する研修会にて社協ボランティアと民生：2回 『みまもり』について他機関と協議：5回 校区ごとの検討：3校区	①達成	令和6年度は、社協ボランティア活動の原点に立ち戻り、小ネットでのみまもり活動や、つながりづくりの重要性を社協ボランティアが再確認することに重きを置いた。	②継続	おたがいさサポート事業による高齢者の見守り活動との連携を視野に入れ、生活支援コーディネーターへの聞き取りを実施する。また、校区社協ボランティアに対しては、『みまもり』に関する意識醸成が進むよう、効果的な研修会を開催すると共に多機関との協働について考えていただける場の設定を行っていく。	②計画通りに進んでいる			